ほっかいどうピース・トレードニュース
2025 年　初春号（第 12 号）

NPO 法人　ほっかいどうピース・トレード
003-0803 札幌市白石区菊水 3 条 1 丁目 6-12
TEL. 090-8897-3134　FAX. 011-812-4377
FB：ほっかいどうピーストレード

東ティモールからコーヒーだより

パルシック東ティモール事務所代表　伊藤淳子

気候変動と買取価格競争

東ティモールのマウベシでコーヒー生産者組合コカマウとともに活動を始めて 22 年が経ちます。今年は過去に例のない経験が 2 つもありました。一つは収穫時期の大幅な遅れ、そしてもう一つはコーヒー相場の大変動です。

例年、マウベシでは早くて 5 月末、遅くとも 6 月半ばにはコーヒーの収穫が始まります。気候変動の影響で近年このタイミングがわかりにくくなっています。今年は 7 月に入っても深い霧や雨に見舞われ、コーヒーの実は青く硬いまま長く日差しを待っていました。生産者たちは実が赤く色づくことを心待ちにしていましたが、晴れ間が出始めたのは 7 月も終わりの頃。コーヒーの収穫は 8 月に入ってようやく始まりました。今年は裏作の年にあたり、もともと大きな収量は見込めなかったのですが、厳しい買取価格競争という思いがけない事態に直面し、どこもコーヒーの確保に躍起になりました。東ティモールのコーヒー相場はこれまで、東ティモールで唯一、コーヒーを赤い実（チェリー）で買い付けている CCT（Cooperativa Café Timor）の買取価格を基準としてきました。しかし今年、高品質なコーヒー生産のために契約農家から良質のチェリーを買い取ろうとする別の企業の内部資料が SNS で漏洩し、このチェリー買取価格が CCT の 2 倍近くだったことから、品質などの条件を無視して数字だけが独り歩きしました。結果、どこもこの数字に近づけないとコーヒーが集まらないという警戒心から買取価格を引き上げ、CCT のチェリー価格の 1.5 倍ほどが相場となりました。

生産者にとって有利なこの相場変動の中、組合の活動に意義を見出す生産者たちが、他には売らずコカマウに出荷を続け、全体で 84 トンの乾燥パーチメントを集めることができました。しかしながら、昨年の 120 トンと比べ、収量自体が少なかったといえます。

そして、この「組合活動の意義」が生産者の市場選択においてどこまで威力を持つか、危うい局面に立たされているとも思います。物理的に豊かとはいえない暮らしを営む人びとが、キロ当たり数セントの違いで組合以外の市場にコーヒーを売ったとして、わたしたちにはその行動を咎めることはできません。東ティモール産コーヒーが多くの人たちに美味しいコーヒーとして認知されるようになり、高くても買いたいという市場が増えていくにつれ、わたしたちが大切にしてきたフェアトレードで結ばれた関係はどう対応していけるのか、問われていると思います。

コカマウが品評会入賞

最後に朗報です。11 月に東ティモールで開催されたコーヒーフェスティバルでは、コカマウのコーヒーが品評会で 1 位と 2 位に輝きました。また、コーヒー畑の改善コンペでは 2 位に入賞しました。長年の地道な苦労がこうして報われることを、ともに喜べる関係はやはり特別だと感じます。　（2024 年 12 月）

霧の中の青い実 7／24～ようやく晴れ間が出て収穫開始に 8／7

表彰されたコーヒー生産者の皆さん